

第3回

チョンゲチョン

# 清溪川復元推進本部長

チャン ソクヒョ

## 張錫孝氏に訊く

### 「よりよい環境を未来へつなげるために～ソウル市のパワフルな取組み～」

磯部 公一  
ISOBE Koichi  
京都大学大学院

佐竹 わか菜  
SATAKE Wakana  
信州大学大学院



人、都市、文化をつなげ、さまざまな分野と結びつく土木。土木工学はあらゆる局面でつながりを持つ工学である。また、人との心のつながりが大事になる業界でもある。本企画では、「つながり」をキーワードにさまざまな分野で活躍される方々へのインタビューを通して、土木業界に関するご意見を伺う。

第3回目の今回は、ソウル市が推進するよりよい環境を未来へつなげるプロジェクト・清溪川復元計画<sup>1)</sup>を取り上げる。本プロジェクトの計画・マネージメントの全てを統括する清溪川復元推進本部長・張錫孝氏にインタビューし、プロジェクトを成功させるための努力、韓国人から見た日本の土木事業について伺った。

学生

高架道路を撤去して清溪川を復活させるという発想はどこから生まれたのでしょうか。また、このような復興事業がこれまで手つかずであった最大の理由は何でしょうか？

世界は地球村という一つの運命体で、地球の生態系は人類共同の資産と考えられるようになってきています。そのため、ポストンでの事例<sup>2)</sup>に見るように、都市景観を悪化させて環境汚染を引き起こしている高架道路を撤去し、都市河川を復元することは、世界的な成り行きといえるでしょう。

清溪川を復元する理由は、環境と生態系の復元、ソウルの歴史の回復、地域間の経済格差の解消などいろいろありますが、その中の一つが、都心部において水と調和のとれた空間を確保することです。都心に流れる清い水は、市民の心を穏やかで、ゆとりあるものへと変えてくれるはずです。

1960年代以後、ソウルは急速な大量生産と開発を繰り返してきました。その結果、世界の都市の歴史で前例のないくらい高度な経済成長を成し遂げました。しかしその反面、交通混雑、地域不均衡などの産業化時代に累積した都心問題が未だ残るなど、自然と環境を保護・復元していくことを疎かにした側面があります。

かつては成長と開発が政策の最優先となっていました。これからは高度成長期に発生した都市問題などを“治療”し

て、ソウルの歴史・文化と自然環境を“回復”することに集中しなければならないと考えています。その意味で、清溪川復元はとても重要な事業であるといえます。

いつ頃、清溪川復元事業の計画が浮上したのでしょうか。

今の市長、李<sup>イ</sup>明博<sup>ミョンボク</sup>市長が立候補する際に、公約の一つとして清溪川復元事業を取り上げてから計画が浮上しました。市長が当選し、就任してすぐにこの清溪川本部が設立され



写真-1 近隣ビルより見下ろした清溪川工事風景

ました。

清溪川周辺の空間の最終的な目標はどのようなものですか？  
完成後の清溪川の位置づけを教えてください。

清溪川の水辺には公園と緑地を造成して、市民のための自然との出会いとくつろぎの場や、散歩や運動ができる空間を提供しようと考えています。清溪川はソウル市民の情緒的故郷であり、国内外からの訪問者のための観光名所へと生まれ変わろうとしています。

また夜間においては、景観照明を設置して、光と水の出会いを通じて美しい清溪川の夜景を演出する予定です。例えば、清溪川に設置するミニチュア<sup>3)</sup>に光ファイバーを設置して、光の美しさを直接感じられるようにしました。また、貯水湖内には半導体発光装置を設置して、光と水が一体となる幻想的な空間を作り上げることを計画しています(図-1)。

この事業を推進するにあたり、どの程度市民の声が反映されたのでしょうか。

ソウル市では、清溪川復元事業に多くの市民に参加してもらうことを目的とした“清溪川復元市民委員会”が2002年9月18日に設置され、現在も運営されております。この委員会は、各界各層の市民代表と関係専門家等の134名で構成されています。また、このような委員会を設置することは、条例により定められています。

市民委員会では、清溪川復元事業に関連して歴史文化、自然環境、交通、安全性など、各分野別での調査・研究および市民意見の収集と、重要事業の審議・自問活動を展開しています。また、市民委員会の効率的な運営のために本委員会、企画調整委員会など、六つの分科委員会に分けて運営されています。これまでに合計108回の各種会議、セミナー、ワークショップおよび市民の直接参加による公聴会の開



図-1 完成後の清溪川周辺のイメージ図



写真-2 市民手描きの絵が清溪川周辺の壁に(HPより抜粋)



写真-3 市民のデザインにより架けられた歩行専用の橋

### 清溪川広報館について

- \* 清溪川沿いに位置
- \* 1日平均60人の見学者(下写真)
- \* 見学に来る外国人の6割は日本人
- \* 韓国語、日本語、英語の3種類のパンフレット
- \* 模型を用いて、清溪川の変遷を分かりやすく説明。模型は有名な韓国人職人による手作り(右写真①~④)



朝鮮英祖時代(1760年頃)



朝鮮時代(1800年代)



取材日の広報館の様子



戦時中(1950年代)



清溪川覆蓋時代(1960年代)

催などが実施されました。

このような活動を通じて、法的・技術的に実現可能で妥当性のある事項は、清溪川復元基本計画に全て反映させて、工事を推進しています。

例えば、文化の橋<sup>4)</sup>の寄付募金、清溪川の「参与と和合の壁」の造成<sup>5)</sup>(写真-2)、清溪川の橋梁のアイデア公募(写真-3)など、市民が直接参加できる事業が進行中です。

#### 市民に対し、現場見学会などは主催されていますか？

工事が始まってからは安全上の問題で行っていませんが、着工前には工事区域を見学できるようなツアーを組んでいました。現在の計画では、安全上の問題が解消された時点で、市民の方に現場を見学してもらうようなプログラムを準備中です。

この事業が完成すると、とてもよい環境へと生まれ変わると思いますが、その間の工事に対して苦情や事業に対する反対意見もあったかと思えます。特に、交通対策・現場周辺の商店への対策にはどのような対応をとられたのでしょうか。その中には、ソウル市オリジナルの対策などはありましたか？

清溪川復元事業開始前に最も憂慮した点は、一つ目に交通問題、二つ目に清溪川周辺商店街の商人の方々から工事によって影響を受ける問題、三つ目は清溪川周辺の露天商の問題でした。しかし実際に工事が着工されると、市民の皆さんの自発的な公共交通利用や、自律曜日制<sup>6)</sup>への参加などにより、交通問題は発生しませんでした(写真4)。



写真-4 交通対策のひとつとして、工事現場近隣の東大門運動場を駐車場として利用

また、清溪川周辺商店街の商人の方々も復元する清溪川に合わせて、工事開始前とは異なる業種への転換を模索するなど、発展的に未来を設計しています。

われわれとしても、清溪川周辺露天商の方々に対して東大門運動場に風物市場を開設するなど、自活維持を支援しています。商店街、露天商の方々への対応には推進本部の人間が直接話し合いに向いて、説明することもありました。また、ソウル市オリジナルの対策というわけではありませんが、町内会で広報活動を行ったり、新聞や雑誌などのさまざまなメディアに広告を出したり、各メディアからのインタビューを受けるなど、考え得る手段は全て使ったことが特徴かもしれませんね。

#### 広報館でボランティアされている方にインタビュー ボランティアを始めたきっかけは？

李さん 2002年の日韓ワールドカップで初めて参加したボランティアがきっかけでした。その時にボランティアの楽しさを覚えたからです。

#### ボランティアに参加するには？

李さん まずソウル市庁で登録を行います。その時、自分が希望する派遣先を選ぶことができます。私は歴史が好きなので、広報館と歴史博物館の2か所を選びました。今回の清溪川の復元は歴史的な事業なので、少しでもこの事業に貢献したいと思い、広報館を選びました。やはり、清溪川広報館は人気があります。

趙さん 私もソウル市の歴史的な事業と一緒に参加したいと思い、広報館でのボランティアを選びました。また、日本語に大変興味があり、自分で日本語を勉強して、日本人

の見学者が来た時には、少しだけですが日本語で案内しています。



丁寧な日本語で、清溪川の歴史からプロジェクト開始のきっかけまでを説明してくださる趙さん

このように短期間でプロジェクトを推進するのに欠かせなかったものは何でしょうか？

毎週、清溪川事業についての会議が開かれています。プロジェクトを推進する上で、絶対に欠かすことのできない会議です。この会議では、現在の工事の進捗状況について話し合われています。今回のような難しくて慌しい工事が着々と順調に進んでいる理由は3点あると考えています。1点目は市民にビジョンを提示していること、2点目は詳細な検討と、緻密で現実味のある計画であること、3点目は市長の事業を推し進める力、すなわちリーダーシップです。これら3点のことが合わされば、どのような事業もできるような気がします。

では、その市長とはどのような方なのでしょう。

何かの方針を決める時や、計画を練る時は大変に慎重です。しかし、一度決めたことに対してはすごい力で推し進める方です。

ソウル市民の反応は如何でしたか？

復元事業に対する当初の心配は、実際に工事が始まると、ソウルの明るい未来を期待する風潮へと変わりました。これを象徴するのが、ソウル市のインターネット新聞で市民から募集した2003年の10大ニュースで、「清溪川復元計画」が1位に選ばれたことでしょう。このことから、この事業における市民の関心と期待度の高さが読み取れるのではないのでしょうか。

### （株）西永技術団 清溪川復元建設工事管理団（1工区）管理室次長 <sup>クウォンイル</sup> 具元一氏へのインタビュー

今回の工事での仕事内容を教えてください。

設計チームの管理監督です。設計通りに工事がうまく進んでいるかを管理監督しています。

工事で大変だったことを教えてください。

工事自体は難しいものではありません。しかし、コンクリートを切る作業などは音が出るので、それに関する市民からの苦情に対応することや、高さが30mもある高架橋を切って持ち出す作業が大変でした。ですので、その作業自体が難しかったと言うよりは、市民の不便を最小限に抑えるために気を遣ったという点で難しかったですね。

どのような点に気を遣われたのですか？

昼の作業では騒音とほこりが発生するので、それらを最小限に防ぐための対策を取りました。しかし完全には防げ

ないため、商店街の委員会の方に工事の進め方や作業について説明したりと、理解を求めることに努力しました。

橋が完成していなくても人や車が通っていますが？

これも市民の不便を最小限にするための対策のひとつです。土木で工事が終わったというのは飾りの面も完璧に終わったものを指しますが、交通の流れを考え、安全面に問題がなければ通すことにしました。

海外からの反響は如何ですか？

アジアから良く視察が来ます。特に日本の東京では同じような復元工事をやる予定とのことで、大学の先生方がしばしば訪れます。ヨーロッパからも、今回は大掛かりな事業ということで見学に来られます。



広報館前の現場の施工状況



東大門運動場付近の現場の状況

### 今回の事業をいかにご自評なさいますか？

自ら担当する事業なので、自評というのは恥ずかしいのですが、遣り甲斐がある事業であり、プライドを持って、最高の傑作づくりに努めています。

### 日本も近年は環境に配慮された整備事業が行われるようになってきました。韓国・ソウル市の方から見て、日本の土木工事・事業のやり方はどのように映っていますか？

日本の東京も環境問題を考慮して、日本橋上の高架道路の撤去を検討していると聞いています。清溪川復元事業がそうであったように、東京都の高架道路撤去事業も容易なことではないでしょう。高架道路撤去事業にかかる費用負担、交通問題、利害関係者の反発などの現実的な問題や、突発的に発生する予期できない問題など、いろいろ難しい問題に直面することもあります。しかし、東京都の高架道路撤去事業においても、やはり市民たちの信頼が裏づけされれば成功を収められると確信しています。そのためには、明確なビジョンを提示することが最も重要となるでしょう。そうすることで、市民からの理解が得られれば良いですね。清溪川復元事業が、日本の高架道路撤去などの環境復元事業の推進に良い参考になれることを願っています。

### 清溪川復元事業は未来に向けた取り組みです。最後に、これから未来の土木を担おうとしている土木技術者に一言お願いします。

21世紀は環境・生態と文化が何よりも重要な時代です。これからの土木技術者たちは構造的な安全と機能のみを考慮した施設物を設計し、施工することに満足するだけではいけません。周辺環境と調和することなど景観を加味した芸術作品を作るといった姿勢に矜持と自負心を持って臨んで欲しいと思います。

また、この頃の若者たちは難しいことを避けようとする傾向にありますが、もっと前向きな考え方を持って、日本だけ



写真-5 右より張錫孝氏、通訳の金さん、佐竹委員

でなく、世界的な流れとなっている土木離れを食い止めてもらいたいですね。

### 取材を終えて・・・

圧倒的なスピードで推し進められる巨大プロジェクトの裏側には、多くのソウル市民の歴史や街並みに対する高い関心と、強力な市長のリーダーシップとがつながり実現できたのだと実感しました。 [学生編集委員 磯部公一]

韓流ブームに沸く日本ですが、今回は土木事業における韓流をご紹介します。現在、韓国の文化・芸能が日本で脚光を浴びていますが、今回のパワフルな清溪川復元事業からも、活気に満ちた韓国を読み取ることができました。

[学生編集委員 佐竹わか菜]

最後になりましたが、お忙しい中、快く取材に応じていただいた清溪川復元推進本部長 張錫孝氏に感謝いたします。どうもありがとうございました。

この記事に関する感想、ご意見は下記までお寄せください。

E-mail: edi2@jsce.or.jp

### 参考資料

- 1 - かつてソウル市を東西に流れていた清溪川の復元計画。覆蓋され、その上に高架道路が建設されていた清溪川が清水の流れる緑豊かな川へと変貌する。詳しくは今月の話の広場を参照。
- 2 - セントラルアーテレイ・第3トンネルプロジェクト（通称：Big Dig）。ポストン都心部を通る高速道路を地下に移し、交通渋滞を緩和し、高架撤去後の土地を公園として再利用することで一酸化炭素レベルの削減を図る計画のこと。
- 3 - 「清溪川広場」（清溪川復元事業の開始地点である東亜日報社前～新踏鉄橋に造成される広場）に設置される、復元された清溪川の姿を見られるミニチュア。
- 4 - 清溪川に新しくかけられる橋。詳しくは <http://japanese.chosun.com/cgi-bin/printNews?id=20040227000032>
- 5 - 詳細は下記のホームページを参照。 [http://Japanese.seoul.go.kr/chungaehome/seoul/sub\\_htm/main\\_news\\_3.tml](http://Japanese.seoul.go.kr/chungaehome/seoul/sub_htm/main_news_3.tml)
- 6 - ソウルの交通渋滞の解消と大気汚染の改善のために推進されているキャンペーン。月曜日から金曜日のうちの一日を自分で選び、その日は自家用車の利用を自粛するというもの。
- 7 - 東京オリンピック開催に合わせて建設された日本橋上の首都高速道路を、老朽化を理由に撤去し、その周辺地域を再生しようとする計画。

## 一般市民から見た清溪川復元工事とは。

東北アジア環境協力会議に参加され、会議の一環として清溪川広報館を訪れた白<sup>ベク</sup>順蘭<sup>スラン</sup>さん、朴<sup>パク</sup>景民<sup>ギョミン</sup>さん（通訳のボランティア・大学生）、本江 薫さん（財団法人環日本海環境協力センター・富山市）

### この事業をどのように思われますか？

**白さん** 予算が巨額であることに驚き、復元された後の環境に感心しています。

**朴さん** 最初は交通が不便になるから心配していました。しかし、通訳として会議に参加して、復元した後の韓国の姿を理解し、肯定的な考えに変わりました。

**本江さん** 私は今回初めてこのプロジェクトについて知りました。規模の大きさには驚きました。さらに2年間という短期間での工事で、しかもソウル市の単独事業というところに、すごいなと感心しています。日本ではなかなかこういった事業は難しいでしょうね。今回は季市長がかなり強力なリーダーシップを発揮していて、財力もあるから可能だったのでしょう。

### 交通の面で不便さは感じられましたか？

**朴さん** 時々この地域に買い物に来ますが、渋滞により不便になったと感じています。もともと交通量が多くてあまり便利なおところではありませんでしたが、工事がスタートしてより不便になりました。でも、復元工事が終わった後には新しい環境に生まれ変わるでしょう。だから、この事業には賛成しています。

### どのような川になることを希望しますか？

**白さん** 江ではなく、川になって欲しいです。自然な川に戻ったら良いなと思っています。

### 観光案内場でボランティアを勤めている李<sup>ヨンウク</sup>竜昱<sup>ウク</sup>さん

この事業には賛成です。ソウル市の中心部を流れる川で

すから、復興すれば大変良いことです。完成後には8万tもの水が流れると聞いています。そうなるとソウル市の空気が良くなるでしょうね。今の市長はブルドーザーのような人です。そうでないと、こんなに事業を推し進めることはできなかったでしょう。

事業に関しては、だいたい市民の7～8割が賛成しているのではないのでしょうか。

### 行政を専攻する大学生の李<sup>リヨンウォン</sup>涎源<sup>ウォン</sup>さん

復元事業にはある程度賛成しています。しかし、あまりにも予算が大きすぎる点には問題があるのではないかと思います。また、予算が建設の方面に集中していることも気になります。

### 屋台店主の崔<sup>チェフアソン</sup>華順<sup>アソン</sup>さん

元々は清溪川沿いで屋台をやっていましたが、清溪川の工事の関係で、今は東大門運動場の中に一時的に移っています。以前の清溪川沿いと今の東大門運動公園で、屋台の売上やお客さんの数はそう変わりません。

### 今回の取材に通訳としてボランティアで参加していただいた金<sup>キムヒスン</sup>喜淳<sup>ヒスン</sup>さん

復元事業初期は、市長がこの事業を政治的に利用する恐れがあると疑う世論もあり、よい印象を持っていませんでした。しかし、今回の取材で、事業内容や市長のリーダーシップに対し理解を深められました。また昨年夏、市長が推進した交通システムの整備にも市民からの苦情が後を経ちませんでした。現在も交通システムは時々問題を起こします。市長が進める事業は、よい結果となるようにと考えられたものではありませんが、韓国は民主主義社会であり、「結果さえよければ」では済まされません。事前に社会を十分納得させ、同意を得る必要があります。今後の事業では、そのような「過程」を整えてから事業を進めてもらいたいです。

## 学生編集委員を募集します。—私たちと一緒に学会誌を作りませんか—

仕事：基本的に学生のページを担当。  
編集委員会への出席（原則月1回：東京）。単発取材記事もあり。

任期：決まり次第～一年以上 二年以内

資格：国内在住の大学生・大学院生であること。土木学会会員であること。

報酬：なし（旅費、取材必要経費は学会で負担します）

応募方法：簡単な履歴・顔写真および自己PRをA4用紙一枚程度にまとめ、下記まで郵送してください。指導教官の承認の一文を添えてください。

募集人員：2～3名

応募締切：2005年3月31日

応募先：〒160-0004 新宿区四谷1丁目（外濠公園内）  
（社）土木学会 編集課 中村宛